

まんだら通信

第200号 (通巻236号)

平成25年02月 西暦2013年 佛曆2579年 皇紀2673年

安房国八十八ヶ所 第一番札所
295-0103 千葉県南房総市白浜町滝口1084
真言宗智山派 天神山 紫雲寺 高橋 龍涉
郵便振替 00120-2-43163 紫雲寺
TEL.0470-38-4740/FAX 0470-30-5040
<http://www.shiunji.org/>
Mail post@shiunji.org



麻生さんの元気が出るお話

「あさ、なまたろつ」ではありません。(爆笑) 今、何となく株価が下がったりして、新聞などで見ていると先行き暗い話が多いですね。アメリカで個人向け住宅ローンが下がり、その影響がヨーロッパ、日本にも影響し株価が下がった。日本ではあまり影響を受けていないにも関わらず、健全であるが不信感がないでいる。これはどう考えてもおかしい。

貿易収支は赤字でも、仕事始めになるとこの会社も、「わが社を取り巻く環境は厳しいものがある」という話が出す出てくる。税収は延びているにも関わらず日本の環境は厳しいという。それを聞いた人がそんな厳しいところに投資しますか。外国から見てもそんな危ない会社に投資しません。

日本に対する評価はきわめて高いものがある。イギリスの国営放送BBCで「あなたは世界で一番貢献している国はどことだと思いますか。」という調査をしたところ、一年続けて日本が一位だった。なぜこんなに評価が高いのか。

お金の他に、技術とやる気が違います。二つの例を上げてみます。南米にホンジュラスという国があります。ここに青年海外協力隊が行っています。

この国の子供はなぜこんなに勉強ができるのだろう。特に算数ができない。別に自分たちの仕事ではないのですが皆で考えた

です。そこで教科書が悪いと気が付き、隊員みんな考えて教科書を作りました。三年もしたら子供達の成績は上がり、学校に来るようになった。ホンジュラスでは初めての国定教科書にしたそうです。青年海外協力隊の人達は自分の仕事とは関係のないことですが、ボランティアでやっている、これが日本の底力です。今どきの若いものと言われますが、その今どきの若いものがやっているのです。そんなこと日本の新聞などにはできません。

次にシルバードラゴンティアです。山梨の小さな会社の社長さんが、カンボジアでは地雷でたくさんの方が死んでいる現状を聞いた。今自衛隊を退官した人などがボランティアでその作業をしている。そこで自分たちの力で何とかできないかと考え、地雷を安全に取り除く機械を考えたとのことです。それが今カンボジアで活躍している。こういう積み重ねが日本の評価を高くしているんです。この日本のもっている力、働く力だと思おう。

宗教も、キリスト教・イスラム教・ユダヤ教とありますがこれは旧約聖書の教えを元にしていきます。

旧約聖書の中に、あの有名なアダムとイブの話が出てきます。約束を破った罰として労働をさせられる。あちらでは労働は罰なのです。片や日本は土着宗教の国です。神道の場合古事記に出てきますが、高天ヶ原を眺めれば、神々が野に出て働いているとあります。神が行った善い片や罰です。

よく日本人は働き過ぎといわれますが働き過ぎでもなんでもありません。働くといいつとは強みです。

インドのニューデリーに地下鉄がありません。デリー・メトロですね。

日本のODAでできました。地下鉄の入り口に大きな看板があって、「この地下鉄は日本の援助でできました。」と大きく書いてあります。「総工費の75パーセントが日本の援助です」という二つの中に、大きな国旗が貼ってあります。誰が見ても日本の援助とわかり

ます。案内してくれた人が話してくれました。日本人に教わった言葉は「のーき」。

それだけだったそうです。約束は果たす、何といつても納期までといつて働き、何と約束の二ヶ月半前に完成したそうです。それに日本人の指導のもと、時間通りに走っているのは数多い交通機関でこの地下鉄だけです。約束は果たす、働く、労働に対する美意識です。

世界の中で日本の評価は高い。最終便の地下鉄で酔って寝てしまっても、殺されたり、盗まれたりしない。

それから、日本は観光資源がたくさんありながら、観光客を呼ぶ資源が無いと思っっている。能登半島、和倉温泉の例です。20何年から日本一という旅館があります。

ただの普通の温泉です。「ゴルフ場と白い砂浜があるだけの、何の変りもない温泉です。お客さんは七割が外国人です。」

中居さんに、英語中国語を教える、今では台北や上海、北京からのお客さんです。沢山の言葉は知りません。お返しは何か、お風呂とかいくつかの単語を知っているだけです。

でも日本の清潔さ、サービスと治安の良さで人気をよんでいるんです。これは館山でも役に立っています。

このように食べ物、浮世絵のほかにも、外国から評価されているものはたくさんあります。

今ニューヨークでは寿司が人気です。今「トロ」「は日本語の」「トロ」「飯は」「シャリ」だぞです。

自国の文化に絶対の誇りを持っているフランス人。でも『まんが』はやはり『マンガ』だぞです。

自衛隊が海外派遣されたとき、あちらの人に、是非残って欲しいといわれたそうです。

ぐにでもいなくなつて欲しい外国の軍隊。なぜ日本の自衛隊だけ残ってほしいのか、分かりますか。聞いてみたところ、先ず、脱走兵がない、それと婦女暴行がない。無銭飲食がない。日本では当たり前のことですがそれが違うのです。

世界では謙讓の美德が通じるとは限りません。いつまでも、「わが社を取り巻く環境は...」ばかりでなく、「こいつこいつをやっています、こいつこいつをやりたい」といっても良いのではないのでしょうか。インドネシア、フィリピンなど日本の支持率は高い。自分の国がやっていること、自分の会社がやっていることに自信を持ちましょう。日本の農業が築いてきたもの、安全で美味しいものを作る、自信をもって利益にして行く。

一つも暗いものではありません。温暖化、温暖化と言ったが、温暖化のお陰で北海道は米がうまくなった。

前向きに考えていく事が大切です。この国に生まれて良かった、この国のために頑張りたいといえる、そんな日本を作って行きましょう。

五年前、南総文化ホールでの麻生太郎さんのお話です。一時間余りの講演の録音を、家内が「文字起こし」で文章にしたもので、まんだら通信百四十号(二十年二月)に掲載しましたから、これは二回目です。

「民主党「一度やってみるか」の軽い気持ちで、これ以上ないほど日本をおかしくしました。一度は野に下って国民共々辛い思いをした自民党。見事にカムバックして麻生さん、今では副総理と、内閣の要の財務大臣です。」

真面目一点張りの安倍さんと、おじいさんの吉田茂譲りで、冗談も上手な麻生さん。絶妙のコンビだと私は思います。

先ず経済を元気にしてから教育を建て直し、自衛隊を外国のような普通の軍隊にする...。株価が上がれば、円が程々になって輸出産業も元気になるでしょう。七月の参議院選挙で選挙民の真価が問われるところですね。

にっぽん人情小噺

三遊亭鳳豊ほっほう

第八十五話 ユートピア

最近、思うんですがねえ、「ユートピア」という言葉がありますよね。あれって、理想郷なんて訳して、それこそ桃源郷のような場所を言うようですがね、どうも、私が睨んだところ、「ユートピア」は場所じゃなくて、「時間」じゃないかと思うんですね。

たとえば、みんなでわいわい飲んでますでしょ。もう、笑い声が広がって、「この野郎、お前」なんてぎゃーぎゃー騒いでる時に、誰かがひとりトイレに行って、ふと時間を見て、「え、もう、こんな時間か。終電がなくなっちゃうよ」なんて言いながら席に戻ってきて、「おい、もうこんな時間だから俺、帰るぞ」と言ってるんなさい。だいたい、しらーっとしちやいますから。現実に戻るって、やつですな、

「じゃあ、ワリカンにしよう。ねえ、お愛想、六人で割って」なんて叫んでると、トイレに急に行く奴はいる。「俺、深酒と支払いは医者に止められてるんだ」なんて言ってるうとするヤツはいる。まあ、大変なしつけよう。

つまり、その時の飲み会は、時の経つのを忘れていた時間が「ユートピア」だったんだと思うんですが、どうでしょうか。今日は、そんな「ユートピア」を大事にしている病院の話をししましょう。

七十五歳の吉田博さんが、東京郊外のS病院に検査入院しました。どことが痛いわけではないのですが、身体がだるく、時々、めまいがするので、CTとかMRIとか、よくわからないけれど、とにかく一回精密検査を試みたほうがいいと言われ、かかりつけ医からこの病院を紹介されたようなのです。

ところが、吉田さんは検査入院を拒みました。「冗談じゃねえよ、入院なんかしなくたって検査ができるじゃねえか」吉田さんの言い分にも一理あります。でも、奥さんは必死です。なぜなら、吉田さんは自営業ですから、これまで一度も人間ドックに入っていない。いい機会だから、入院して全部、診てもらおうとかかりつけ医と相談して、入院の手続きをしておいたのです。奥さんは、吉田さんの身体が本心に心配でした。わずかではあるけれど、体も痩せてきたし、第

一、「ああ、疲れた」というのが口癖になつていたからです。毎晩飲む大好きな晩酌の量も心なしか減ったようでした。(ひょっとして、がんだったらどうしよう……)

「ねえ、お願いだから、入院して調べてもらって」

涙をいっぱい溜めて、奥さんが頼んでも吉田さんは首を縦に振りません。とうとう困った奥さんは、かかりつけ医の手紙を持って、S病院を訪ねました。するとどうでしょう、事情を聞いた院長先生がわざわざ奥さんの話を聞いてくれたのです。

「わかりました。じゃあ、こうしましょう。院長が会いたいと言ってる言ってるだけのことです。で、その日は問診だけです。」

「え、でも、もし、がんだったら……」

大丈夫。がんの検査もいざやりますから。ご主人、七十五歳でしょ？ たとえがなくても、明日でどうということはありませんから。いいですか。院長が会いたい、話を聞きたいと言ってるけど、どうするって言うんですよ」

その日、奥さんは吉田さんにその話をしました。

「え、病院の院長先生が。しかも、入院しなくてもいいのかい。だったら、行くよ」

こうして、吉田さんは奥さんに連れられて病院の院長室に入っていました。

「吉田さん、ちょっとおうかがいしますけど、お酒は何がお好みですか？」

「え、酒？」院長から身体の調子を聞かれると思っていた吉田さんは拍子抜けしました。「え、なんでも飲みますよ。日本酒、焼酎、ワイン、ビールウィスキー」

「ああ、そうですか。じゃあ、どれにしますか」院長がそう言っって、カーテンを開けたから驚いた。

カーテンの奥には日本酒の一升びん、何万円もする焼酎、高級ウィスキーがズラッと並んでいたからです。

「ワインはワインセラーに、ビールはその冷蔵庫のなかに。氷もありますよ」

「先生、私はね、病気の検査に来たんですよ。なんです、その酒は。それにしても、高い酒ばかりですねえ」

吉田さんは、もうこの段階で院長先生の作戦に完全にハマっていることに気づいていませんでした。院長先生は、こう言いました。

「そうですよ。ですから、昼間は検査をして、夜は好きなお酒を飲むっていうのはどうですか。ただし、夜飲んだら、病院に泊まってもらいますからね。ひとりで飲んでつもらないなら、私がおつきあいしましょうか」

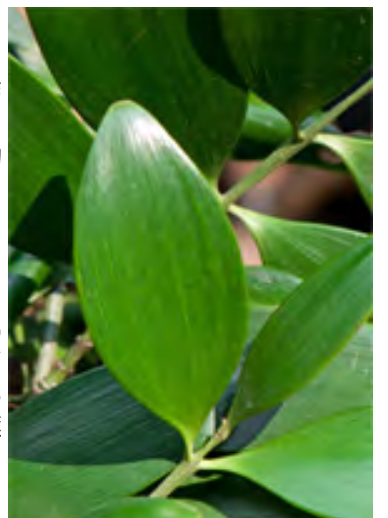
これが、院長先生の入院作戦でした。入院患者はたとえ検査でも入院となれば、ストレスがかかります。

そのストレスを少しでも和らげるには、お酒を飲む人は飲めばいい。高級な酒なら悪酔いもしない。なにより、酒を前の晩多少飲んだからと言って、病気が悪化するわけがないというのが院長先生の持論でした。

「患者さんに大好きな酒を長い間禁酒させるなら、医者は命がけて絶対に病気を治して、もう一度飲ませてあげるよ。禁酒したまま、死なせるな！ 酒好きにとつて、酒を飲んでる時が人生の最高の時間なんだ。それを医者が勝手に取り上げちゃダメだ」これが、院長先生の方針でした。

もちろん、吉田さん、その晩から三泊四日の間人間ドックに入ったことは言うまでもありません。その結果、異常なし。吉田さんは、いまでも奥さんに言ってるそうです。「いやー、あの焼酎、うまかったなあ。今度はあの病院にもっと長く入院するか」

が電話に出てこれこれでした。」という返事に家内も納得したのですが、詐欺を疑われた先き様の苦笑いが見えるようです。暇を奪われる2日間は鬱陶しいことですが、お国のためにはこういう「憎まれ役」も大事ですし、帳簿のつけ方などこちらにも勉強になることでしょう。▼今月の写真は野草ではなく、樹木それも葉だけ。【マキ科マキ属ナギ】というから針葉樹の仲間ですね。葉の長さは7~8センチ。珍しい木で境内に1本だけあります。この葉は昔から魔よけや縁つなぎとして有名なそうです。 2013/02/08 龍歩



それぞれの役に従って法要が進みます。余り知られていませんがヨーロッパの教会音楽と肩を並べる荘厳さは、知る人ぞ知る文化財でもあります。紫雲寺では法要は出来ませんが、『お寺の宏子さん』手描きの大きな涅槃図を掛け遺教経をお唱えして、お釈迦さまのご遺徳を偲びます。▼「千葉東税務署法人第2課の誰それと申します。2月1213日帳簿を見せていただきに参ります。」と、先月電話が来ました。近ごろの詐欺師は思いつけないことを考えるからと、一寸心配になった家内が、インターネットで調べた電話番号にかけたら、「はい私です。ご任職

▼2月。寒が明けて立春が過ぎて暦は春ですが、一年で最も寒い時期。陰暦2月の別称で如月(きさらぎ)ともいいますね。『如月』は、シナの2月の呼び名をそのまま使ったもので、『きさらぎ』は、寒い季節なので着物を更に重ねて着ることから『着更着』。インターネットの辞典の受け売りです。▼陰暦2月15日は、お釈迦さまが北インドのクシナガルの、2本並んだ沙羅(さら)の木の皮下で入滅(にゅうめつ)された日です。総本山智積院では2月14日のお逮夜には、節付きの遺教経をお唱えし、当日15日は涅槃会の法要を厳かに行います。練習を重ねた

余滴